



まなびい掲示板

▶子どもの未来を考える町民の集い & 生涯学習推進大会

とき 2月25日(日) 13:00~
ところ 葛巻町総合センター

<内容>

◆表彰

教育表彰
三浦梧楼賞表彰
標語コンクール表彰

◆実践発表

◆講演

「子どもを叱れない大人たちへ」

講師 落語家 桂才賀さん(写真)

=プロフィール= 海上自衛隊の経験を持ち、少年院篤志面接員としても活躍する落語家。親や教師など子どもの成長に関わるすべての大人たちに鋭いメスを入れます。



▶ニュースポーツ教室(全5回)

- ① 2月20日(火) 社会体育館
 - ② 23日(金) 小屋瀬小体育館
 - ③ 26日(月) 旧星野小体育館
 - ④ 27日(火) 五日市小体育館
 - ⑤ 3月2日(金) 江刈小体育館
- 時間 19:00~21:00
内容 シャッフルゴルフ、ドッチビー、キンボールなど

お問い合わせは、生涯学習課(☎役場内線166)まで

人生二度目の成人式を祝う「四十歳のつどい」が一月十四日、ふれあい宿舎グリーンテージで行われ、昭和四十一年度生まれの参加者二十四人が、軽体操やレクリエーションなどで親睦を深めました。また、厄年を迎えた男性陣のために、厄払い祈願のもちつきも行われ、全員に紅白もちが配られました。丙午生ま

平成18年度「40歳のつどい」
2度目の成人式で思い新たに

れの参加者からは「丙午は人を食うという悪い言い伝えがあるが、今日はみんなで悪い厄を食べ尽くそう」という声がかかりました。日ごろ職場や地域でその中心的な役割を担っている働き盛りの参加者たちは、この機会に同世代の仲間との輪を広げ、今後の更なる飛躍を誓い合いました。



「学生時代に戻ったみたい」という声も聞かれたもちつきの様子



「おいしい」。みんなで協力して作ったそばの味は格別



「めずらしい名字だね」ゲーム形式で自己紹介



伝統芸能「エイサー」を披露する北中城の中学生

マフソレー

北国の冬を満喫
北中城村の中学生

遠く千五百キロ離れた姉妹町村の沖縄県北中城村から、中学生十二人と引率者四人が一月十日から十三日まで本町を訪れ、そば打ちやスキー、酪農体験などの研修のほか、町内三つの中学生と交流を深めました。

一月十一日に行われた町内三中学校の生徒会リーダーとの交流会では、森の館ウッドデッキでそば打ちを体験。グループごとに協力して手打ちそばを完成させ、打ちたて、ゆでたてのそばを味わいました。午後からは会場をふれあい宿舎グリーンテージに移し、ゲームなどでさらに交流を深めた後、各学校の活動の様子を発表しました。

交流会に参加した大石奎嗣さん(小屋瀬中二年)は「北中城中は、町の三つの中学校を合わせた数より生徒数が多い(六〇三人)」ということでしたが、参考になる活動がたくさんありました。今度はぜひ沖縄県を訪問してみたいです」と話していました。沖縄の中学生たちは、初めて見る雪に感動したり風土や文化の違いに驚きながら、北国の冬を満喫していました。北中城村と本町との交流は、沖縄市在住の上原清善さん(87歳)の橋渡しで昭和六十年に始まり、青少年の交流は一年おきに互いの町村を訪問する形で続いています。今年の夏には、町の中学生十二人が北中城村を訪問する予定です。

公民館図書室から

「チルドレン」

伊坂幸太郎 著



まっとうさの「力」は、まだ有効かもしれない。ばかばかしくて、格好いい、ファニーな「五つの奇跡」の物語。

「天国からはじまる物語」

ガブリエル・ゼヴィン 著



車のひき逃げ事故にあった主人公がたどり着いたのは、地上での人生を終えた人が暮らす地「Elsewhere」だった…。

「60歳のラブレッター⑥」

NHK出版 編



2人で築いた年月には、熱い想いや涙が宝物のように…。行間から、思いやりと尊敬と感謝があふれ出るシリーズ第6集。

俳句の楽しみ⑩

親子でこつぽぽぽ

節分や心のおにもたいじする
作者は心にも鬼がいることに気が付きました。「鬼は外!」って言わなくちゃ。
父さんと耳をすませば
もがり笛
強い北風が竹垣などを吹くときに笛のような音がしたら、お父さんが「虎落笛だよ」と教えてくれました。



オリオンを母におしえた冬休み
作者はお母さんにオリオン座を教えてあげました。お母さんも久しぶりに夜空を見上げたのでしょうか。

五・七・五のリズムでことば
を使うようになったら、次は季語を考えましょう。「共通に連想できることば」である季語を俳句に入れることで、十七文字の短い俳句は、十七文字以上の心を伝えることができる「詩」となるのです。

参考 蝸牛新社「小学生の俳句歳時記」